

①

「覚おぼえ(島田村武八郎由緒書上)かきあげ」

寅(享保7年)(1722)9月

宮井家の当主武八郎が、曾祖父以来の同家由緒について書き上げ、南谷組大庄屋弓倉理太夫に提出したものです。

- ・ 曾祖父庄左衛門は、紀州藩浅野家の知行取ちぎょうとりの家臣だったが、故あって浪人となり、島田村に居たが、大坂(夏)の陣(1615)で討ち死にしたこと
- ・ 島田村居住の浪人であった祖父武右衛門が庄屋役を命じられ、長年勤めて老死したこと
- ・ 親武太夫も同様に庄屋役を勤めて老死したこと
- ・ 紀州藩主浅野家の国替くにがえ後に広島藩士となった祖父武右衛門の第三九郎は、これを辞して島田村へ帰郷し浪人となっていたところ、紀州徳川家初代藩主頼宣に鷹匠として召し出され、長年勤めて老死、子孫も家臣として続いていること(『紀州家中系譜並に親類書書上げ』に同家記録があります。)
- ・ 藩主の湯崎おなり(現白浜町)御成おめみえの際には御目見していることを列挙しています。